



平成 27 年 6 月 2 日

川崎市と東京急行電鉄株式会社との「東急沿線まちづくり」に関する包括連携協定の締結について

川崎市と東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄という）は、誰もが暮らしやすい、持続可能なまちづくりの実現に向け、東急線沿線を対象に包括連携協定を締結します。

東急電鉄は、川崎市内においても、宮前区の野川地区での土地区画整理に端を発する東急多摩田園都市の開発や、武蔵小杉の再開発事業などを沿線で進めてきましたが、開発から50年以上経過する地域もあり、今後沿線人口の高齢化や建物の高経年化の進展が予想されます。

これらを踏まえ、東急電鉄が持つノウハウや両者が持つ資源や強みなどを生かして、鉄道を主軸とする駅を中心としたまちづくりと沿線地域の特性に応じた利便性の充実、暮らしを支える持続可能なまちづくりに向けた取り組みを連携・協力して推進していきます。

包括連携協定の詳細は別紙の通りです。

1 連携・協力事項

- (1) 駅を中心としたまちづくりやアクセス向上に関すること
- (2) 沿線の暮らしやコミュニティの発展に関すること
- (3) 沿線の魅力向上に関すること

2 添付資料

- 資料1 川崎市と東急電鉄との包括連携協定の締結
- 資料2 川崎市と東急電鉄の主な取り組み事例

川崎市と東急電鉄との包括連携協定の締結

1. 背景・目的

- 田園都市線沿線は、昭和40年代に東急電鉄が鉄道の延伸に併せて実施した土地区画整理事業などにより、計画的な市街地が形成されており、現在では、東急グループが提供するさまざまなサービスが地域の日常生活に浸透している。また、東横線は、昭和2年に営業を開始し、東京都心部とのネットワークの形成など、川崎市のまちづくりの発展に大きく貢献するとともに、広域拠点である小杉駅周辺地区を中心に拠点としての整備が進められている。
- 田園都市線沿線は、開発から50年以上が経過する地区もあり、今後、高齢化や建物の高経年化が急激に進展することが想定される
- 田園都市線沿線は、駅勢圏に比べて市域の奥行きが大きく、山坂が多いことから、田園都市線沿線への路線バスでのアクセスが多いが、今後の人口減少や高齢化の進展により、長期的には、低密度化が懸念される。
- 上記の状況を踏まえ、当該沿線のまちづくりのパートナーである東急電鉄と沿線のまちづくりについて研究会を開催してきており、この度、沿線のまちづくりに関する方向性が確認されたことから、誰もが暮らしやすい持続可能な沿線まちづくりの実現に向け、川崎市と東急電鉄が包括協定を締結する。

2 連携・協力の基本的な事項

鉄道を主軸に駅を中心としたまちづくりとともに、沿線地域の特性に応じた利便性の充実などにより、地域住民の暮らしを支える持続可能なまちづくりの発展を目指し、両者で連携・協力して取り組みを進める。

(1) 駅を中心としたまちづくりやアクセス向上に関すること

駅を中心に高齢者などの多様なライフスタイルに対応した都市機能集積及び交通結節機能の強化を図る

(2) 沿線の暮らしやコミュニティの発展に関すること

計画的に整備された市街地や地域コミュニティなどの地域資源を生かした協働の取り組みにより、超高齢社会においても住み続けたい沿線づくりを推進する

(3) 沿線の魅力向上に関すること

沿線イメージや鉄道利用者・居住満足度の向上を図り、住み続けたい魅力のある沿線・まちをめざす。

3. 主な取り組み

(1) 駅を中心としたまちづくりやアクセス向上に関すること

【主な取り組み】

■交通結節機能の強化

鷺沼駅周辺の再整備（駅前広場、駅舎など）に向けた調査検討を行います。

■都市機能の強化

駅を中心とした多様なライフスタイルに応じた都市機能集積に向けた調査検討を行います。

■駅アクセス向上

バス路線の充実に向けた取り組み・連携を促進します。

■都市防災

災害に強いまちづくりのため、駅を中心とした防災計画・防災拠点の整備を推進します。



田園都市線沿線ゾーニングイメージ

(2) 沿線の暮らしやコミュニティの発展に関すること

【主な取り組み】

■安全で暮らしやすい生活サポート

沿線エリアにおいて、セキュリティシステムなどのハード面と地域の見守りなどのソフト面の両面から連携した取り組みを進め、生活サポートの展開を図ります。

■地域での住み替え促進

次世代型「住み替え」事業による多世代共存型の活気あふれる新しい街の価値創出を促進します。

■都市のリノベーション

既存ストックを活用したリノベーション事業により、既存建物の資産価値向上とまちの魅力向上を推進します。

■日常生活支援

高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう自立支援型デイサービス施設の設置に向けた検討を行います。

■地域資源を活かした地域との協働によるまちの魅力づくり

「みどり」をきっかけとしたコミュニティづくりなど、地域との協働によるまちの魅力づくりを促進します。



リノベーション事例(宮前区小台)

(3) 沿線の魅力向上に関すること

【主な取り組み】

■地域の魅力向上に向けた情報発信の充実

行政情報をはじめとした沿線の生活情報などについて、連携して効果的に情報発信を行います。

- ・「地域の寺子屋事業」を通じ、沿線の地域内・多世代交流の促進を図ります。
- ・市域を超えた生活行動圏を踏まえ、軸となる鉄道を介した隣接都市との連携、交流に向けた検討を行います。
- ・高架下などの既存空間の有効活用に向けた検討を行います。

川崎市と東急電鉄の主な取組事例（参考）

武蔵小杉駅南口地区西街区市街地再開発事業・武蔵小杉駅ビル整備 平成 25 年

- ・武蔵小杉駅南口地区西街区市街地再開発事業については、都市再開発法に基づき、広域拠点の駅前にふさわしい都市基盤施設と魅力ある複合建築物の整備を一体的に推進。建物低層部には商業・業務施設及び新中原図書館を中心とした公共公益施設を導入。
- ・東急線武蔵小杉駅改札口及び南武線連絡通路と直結の「武蔵小杉駅東急スクエア」を中心に駅舎や線路で東西・南北に分断していたまちをつなげ、賑わいと活気にあふれたまちづくりを推進。

○事業概要

地区面積：1.4 ha
 延べ面積：67,720 m²
 高さ：約150 m
 階数：地上39階、地下2階
 主な用途：住宅、店舗、変電所
 ※新中原図書館
 ※認可保育園
 (東急スクエア
 平均来客者数 5.5 万人/日)
 (新中原図書館平均利用者数
 6 千人/日) 約 2.7 倍増



西街区竣工写真

鷺沼駅北口改札口の開設 平成 23 年

- ・鷺沼駅北側利用者の利便性向上を目的に、平成23年3月に、東急電鉄が北口改札口を新設。
- ・北口改札口の開設に併せて、歩行者の安全性確保のため、市が駐輪場の移設及び歩道整備を実施



整備前

整備後

梶が谷駅交通広場の整備 平成 18 年

- ・交通広場の整備に向け、市と東急電鉄が連携を図り、地元の市民組織である「梶が谷駅まちづくり協議会」による市民提案を踏まえるなど、地域、企業、行政の協働による交通広場を整備



武蔵小杉駅へのホームドアの整備 平成 26 年度

- ・視覚障がい者等の鉄道駅のホームからの転落事故、列車との接触事故が多発していることを踏まえ、転落事故や接触事故の防止効果の高いホームドアを整備（東急東横線）
- ・東急電鉄は、2020年を目標に東横線、田園都市線全駅でのホームドア設置することを決定



設置前
 (武蔵小杉駅
 東急東横線
 上りホーム)

設置後

東急田園都市線複々線化事業に伴う高架下利用 平成 26 年

- ・東急田園都市線複々線化事業により生まれた空間を効果的に活用し、地域課題に対応するため、二子新地駅前高架下に駅前駐輪場や地域要望の多かったスーパーマーケットを整備



二子新地駅駐輪場
 収容台数：697台
 運営形態：定期利用、一時利用

宮前平駅南側駅前広場の歩行者利便性向上 平成 26 年

- ・宮前平駅南側の駅前広場について、バス停とモニュメントの間の歩行空間が狭くなっており、市の車座会議などでも要望が出されたことを踏まえ、東急電鉄が、植栽帯を縮小して前面の歩行空間を拡張し、歩行者の利便性向上を図る



整備前

整備後

リノベーション事業による既存ストック活用 平成 27 年

- ・既存ストックを活用したリノベーション事業により、既存建物の資産価値向上とまちの魅力向上など都市のリノベーションを図るとともに、川崎市の重要課題である「待機児童の解消」に向け、保育園整備を実現



所在地：宮前区小台二丁目
 用途：寄宿舎、認可保育園